

中国語の方向補語について

— 日本人学習者にとって分かりにくい点

丸 尾 誠

1. はじめに

中国語の方向補語は、最も基本的かつ不可欠な文法事項の1つであり、ほとんどの初級テキストでも扱われている。しかしながら、スペースの制約もあって、テキストでは方向補語の組み合わせのパターン、および主体の移動を表す典型例といったもののみが示されるケースも少なくないために、とりわけ対象の移動を表すケースなどは、実際に使いこなすのは容易ではない。本稿ではそうした方向補語の各種用法について、日中対照という観点から日本人学習者にとって分かりにくい点を整理したうえで、その要因を探る。

2. 問題の所在

以下、日本人にとって理解が容易ではないと思われる方向補語に関する用法を個別に列挙するとともに、その要因を併記する。

2.1. 派生義

代表的な難点としては、まず方向補語の派生義を覚えることが挙げられる。多岐に渡る派生義の各用法については、辞書でもその説明に多くのスペースが割かれているものの、現在では大部分の学生は電子辞書を使用しているため、紙媒体でのケースのように「視覚的に」相互の意味の関連性を実感することが困難になっている。

この派生義の多寡には補語によって差がみられる（刘月华主编 1998 では、方向補語の各項目の説明に割くページ数の差に、そのことが反映されている）。空間認識において中核的な位置を占める“上（来/去）、下（来/去）”などの“上、下”類には派生義が多くみられるのに対し、“出、進”類では起点・着点が「閉じた空間である」というイメージに束縛されることもあり、派生義は少ない。さらに“回”類に至っては抽象的用法への広がりが見られず、方向義を表すにとどまる。

この派生義の習得に関してはイメージで捉えることが、中国人的な発想を身に付けるという点で有効であるともしばしば主張される。例えば、文法書類で“出来”の表す意味について「産出」（例：想出来）、「識別」（例：听出来）のように個別に示されるものの、その中核にあるのはあくまでも「出現」という認識である。また、“起

来”の表す代表的な用法として「集中義」（例：团结起来、组织起来）が挙げられ、古川 2009 では「1カ所に集まって来て、ひとカタマリになる」（68 ページ）というイメージで捉えられている（図 1）。

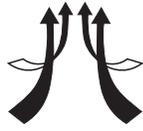


図 1

古川 2009 : 68 より

同様に、刘月华主编 1998 では（広がるイメージで捉えられる）補語“开”と相反するものとして、“起来”のイメージを次のように表示している。

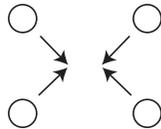


図 2

刘月华主编 1998 : 346 より

学習者にとって、こうした図示は確かに分かりやすいものと思われる。一方で、この集中義に伴う「一点に収斂していくイメージ」は容易に着点を想起させるものであり、このことはむしろ、同じ「上がる」意味を表す“上”が着点に焦点がある（例：上台 [舞台上に上がる]）のに対し、“起”は起点を焦点化するものである（例：起床 [起きる]）という性格²⁾と抵触することになり（図 3 参照）、この両概念にいかにか整合性をもたせるかということが更なる課題となってくる。



図 3

2. 2. 日本語と中国語の移動表現に関する相違点

移動表現に関する日本語と中国語の対応の不一致という点では、以下のような事象が挙げられる。

- ①「教室に入ってくる」という表現について、日本語ではデフォルト値となっている「歩く」という様態が、中国語では“走进教室来”のように言語化されるこ

とが多い。逆に、これを日本語で「教室に歩いて入ってくる」と訳すと、くどく感じられる。

②通過を表す“过”は、「橋、トンネル」などの区切りが明らかな場合のみならず、次のような明確な境界の示されない同一空間の移動を表す場合にも現れる。

(1) 飞机从空中飞过去了。[飛行機が空を飛んでいった]

ここでは話者の「視界」という境界を導入することにより、その区域の通過として捉えることができる。しかしながら、“过”が述語動詞として用いられる次のような会話では、我々日本人は通過や境界ということを特に意識せずに常用表現として覚えることになる³⁾。

(2) A: 你过来! [おいで]

B: 我马上过去。[すぐ行きます]

③方向補語“回”[戻る]については派生義をもたず、その用法が取り立てて問題となることはないものの、例えば次の例(3)では行為の対象が「元の場所」に移動するわけではなく、また例(4)では「同一物の移動」を表すものではない。

(3) 我让他一到目的地就给我拍回一封电报(《汉语动词用法词典》269)

[私は彼に目的地に着いたらすぐに私に電報をくれるように言いつけた]

(4) 一斤黄豆可以换回两斤豆腐(《中国语补语例解》222)

[1斤の大豆は2斤の豆腐と交換できる]

これらはもはや「“回”=戻る」という対訳の構図では捉えられないものであり、ここでは中国人の「ホーム」に対する認識が言語化されているといえる。

④動詞と方向補語の意味関係に着目すると、主体の移動を伴うものとして“跑进来”[駆け込んでくる]【同時型】や“买回来”[買って(それから)帰ってくる]【先後型】のフレーズに加え、さらに“坐过来”[こちらに来て(それから)座る]および“坐进来”[(中に)入ってきて座る]のような動作の順と言葉が逆に配列されている用法がみられる⁴⁾。このような言い方は既習の語の組み合わせにすぎないとはいうものの、日本人学習者にとっては容易に使いこなせるものではない。このタイプの例をあわせて挙げておく。

(5) 你再睡过来点儿(《中国语补语例解》428)

[もう少しこっちに来て寝なさい]

(6) 站在排外的人赶快站回去(《中国语补语例解》554)

[列の外に立っている者はすぐに戻って立ちなさい(→並びなさい)]

(7) 同学们先坐回去，有问题一会儿再讨论（《汉语动词用法词典》485）

〔(生徒に向かって) みんな、ひとまず戻って座りなさい。問題があればしばらくしてから話し合おう〕

⑤「座る」意味では“坐”“坐下”“坐下来”のいずれの形でも用いられるのに対し、その反義語である“站”〔立つ〕については通常は複合方向補語を付した“站起来”の形で用いられるため、学習者には不均衡に感じられる。また“请进。”のように単独の述語として使える動詞“进”が、“?可以进吗?”⁵⁾ (後述例(8))では不自然となる点などにも、方向動詞の使用の難しさが現れているといえる。

上記①～⑤で言及した事象以外では、とりわけ“来/去”の用法については中国人の発想・認識というもので含めた理解が必要となり、習得が容易ではない。例えば、次のような日本語の述語動詞をそのまま訳しただけでは、中国語としては不自然または非文となる場合が少なくない。

(8) 入ってもいいですか。

? 可以进吗? → 可以进来(/ 去)吗?

(9) 君は帰っていいよ。

* 你可以回。→ 你可以回去。

ここでは“来/去”など、方向補語を付加する必要がある。以下、とくに“来/去”の用法を中心に分析をすすめる。

2. 3. 日本語訳に現れない“来/去”

我々が「動詞+方向補語」の組み合わせ(フレーズ)を覚えるに際して、日本語の複合動詞と比較した場合、通常、中国語では話者との関連付けを表す“来/去”が現れる点に相違がみられる。以下、具体例で示す⁶⁾。

【主体の移動を表す場合】

(10) 滑り降りる：滑下来 / 滑下去

這い出る：爬出来 / 爬出去

駆け込む：跑进来 / 跑进去

この“来/去”を付加した形は、“把”構文を用いた対象への働きかけ、あるいは状態変化などを表す場合の述語としても多く用いられる。

【対象の移動を表す場合】

- (11) 入れる : 放进来 / 放进去⁷⁾
 はがす : 掲下来 / 掲下去
 取り出す : 拿出来

【動作の方向を表す場合】

- (12) (パソコンのキーを) 押す : (把键) 按下去 / ?? 按下来

【状態変化を表す場合】

- (13) a. 出っ張る : 凸出来
 へこむ : 凹下去 / 凹进去
 b. 正気を取り戻す : 醒过来
 気を失う : 晕过去

上記「主体の移動を表す場合」については、日本語でも「駆け込んでくる／いく」のように話者との位置を反映させて表現できるものの（その際でも「くる」に対し、「駆け込む」のように「いく」は言語化されないことが多い）、その他の行為や状態についても、中国語では“来 / 去”による視点の導入が必要となる点、我々外国人にとっては理解しにくい。例えば、例(11)の「はがす」および例(12)の「押す」では、動作主の視点が反映された“掲下来”と“按下去”がそれぞれ無標的(unmarked)となる。

2. 4. 統語的制約

「～を出す」の意味を表す中国語の移動動詞“出”が目的語をとった“出国、出门”などの組み合わせは辞書の見出し語として収録されるような慣用的なものであり、“?出教室、?出森林”のような組み合わせになると、単独のフレーズとしては不安定である。よりフリーな結び付きとするには、統語的に“出”の前に動詞を付加する必要がある。

- (14) 走出教室 [教室を出る]

ただし、次の例のようにさらに後に文が続く場合などはこの限りではない。

- (15) 出教室往左拐 [教室を出て左に曲がる]

中国語ではフレーズとしての成立の可否と文中の一部の構成要素となった場合における成立の可否にギャップがみられる現象はこのようなものに限られず、例えば構造助詞“的”の要不要などについてもみられるものであり⁸⁾、学習者を悩ませる一因となっている。

方向補語の学習の際に単純方向補語、複合方向補語という用語を用いて導入される

組み合わせについて、「動詞+“来”類」(例:买来)および「動詞+“上”類+“来”類」(例:跑上去)の例に比して⁹⁾、「動詞+“上”類」の単独のフレーズとしてのテキスト類における提示例は、通常“坐下、放下”など一部のものに限られる¹⁰⁾。このタイプには、フレーズとして示される際には目的語を伴うか、あるいは場所の代替としての“来/去”を付加する必要があるという統語的制約がみられる(例(10)～(13)でもそのような形で示されていた)。

- (16) * 走进 → 走进教室 [教室に入る]/走进来 [入ってくる]
* 站起 → 站起身 [立ち上がる]/站起来 [立ち上がる]
* 转过 → 转过身 [体の向きを変える]/转过来 [(こちらを) 振り向く]
- (17) a. * 把文件装进
b. 把文件装进书包里 [文書をかばんに詰め込む]
c. 把文件装进去 [文書を詰め込む]
- (18) a. * 把猪关回
b. 把猪关回圈里 (《汉语动词用法词典》156) [豚を元通り囲いに閉じ込める]
c. 先把那两条狼狗关回去 (《中国语补语例解》196)
[まずあの2匹のシェパードを元通り閉じ込めよう]

(例(17)(18)はそれぞれbが「+場所目的語」、cが「+“去”」の例)これは方向動詞が補語となっている場合のみならず、次のような述語として用いられた場合にも該当する(上述例(8)と(9)もあわせて参照のこと)。

- (19) 君は昨日何時に帰ったの。
a. * 你昨天几点回的?¹¹⁾
b. 你昨天几点回家的?(+場所目的語)
c. 你昨天几点回去的?(+“去”)

2. 5. 使役化

中国語では自動詞と他動詞は同じ形で示される。

- (20) 发展 [発展する; 発展させる]
停 [止まる; 止める]

“出”にも「出る;出す」の両義があるものの、“出钱”[金を出す]、“出力”[力を出す]のような一部のイディオムのものを除いて、単独では他動詞として自由に目的語をとることができない(荒川 2003:107 参照)。より自由な結び付きを実現するには、前にさらに動詞を付加する必要がある。同様のことを2.4.では移動動詞と場所目的語の組み合わせとして言及した(例:(14) 走出教室)。とりわけ対象の移動を表す場合には、この統語的操作は「使役化」という文法的意味を有することになる¹²⁾。次の例(21)の「*」

を付した各フレーズは他動詞として用いられるものではなく（「出てくる」「入っていく」などの意味では成立する）、それぞれ矢印の右側のようにする必要がある。

(21) (取り) 出す：* 出来 → 拿出来 / 掏出来

入れる：* 进去 → 放进去

上げる：* 上去 → 放上去

(持ち) 上げる：* 起来 → 拿出来 / 举起来

下ろす：* 下来 → 拿下来

同様に、“回来 / 回去”にも自動詞的な用法しかないため、「戻す」意味を表すにはさらに動詞を前に用いる必要がある¹³⁾。

(22) 放回去 [元の場所に置く]

喊回来 [呼び戻す]

次の二例は、例(21)でみたような一体化した行為ではなく、動詞と補語の部分が別個の段階(例(23))、あるいは相反する方向のイメージで捉えられる行為(例(24))であることにより、“回(来)”の部分にとりわけ「戻す」という働きかけの意味を明確に読み取ることができる。

(23) 把他追回来了

[彼を追いかけて連れ戻した]

(24) 这次能卖回本钱就不错了(《中国語補語例解》316)

[今回売って元金を取り戻すことができれば上出来だ]

また、次の例(25)における“拼”は行為というよりも様態(manner)について述べたものであるものの、“回来”を補語にするという統語的な制約からこれを用いる必要がある¹⁴⁾。

(25) 把奖杯拼回来了(《汉语动词用法词典》285)

[トロフィーを必死になって取り戻した]

「動詞+結果補語・方向補語」の組み合わせが他動詞として用いられるとき、補語の部分がいずれも目的語(の状態・方向)について述べたものである点は、日本語(の複合動詞)との相違としてしばしば強調される。

(26) a. 打死：打(主体の行為)+死(対象の状態)

* 殴り死ぬ → 殴り殺す

b. 拿出来：拿(主体の行為)+出来(対象の方向)

* 取り出る → 取り出す

ここで補語の部分が自動詞的に用いられていることは、上で述べた使役化の必要性和表裏一体をなしているといえる。

2. 6. 認識に関わる用法

“来/去”の基本義は「近づく/遠ざかる」という移動義であり、そのどちらを用いるかという視点の取り方についても、我々外国人のものとは必ずしも一致しない¹⁵⁾。その中でも、次のようなフレーズにおいては「出現/消失」という話者の認識に関わる用法となっていると考えられる¹⁶⁾。

(27) 出現：拿出来 [取り出す]

 生下来 [生まれる]

 吐出来 [吐き出す]

消失：咽下去 [飲み込む]

 叠进去 [(内側に) 折込む]

 擦去 [ふき取る]

(28) a. 翻过来 [表にする] — 翻过去 [裏にする]

 b. 凸出来 [出っ張る] — 凹进去 [へこむ]

 c. 把舌头伸出来 [舌を出す] — 把舌头缩进去 [舌を引っ込める]

しかしながら、こうした「視点」は必ずしも“来/去”だけによって担われうるものではない。例えば“嫁”が立場の違いによって“出/进”のいずれとも結び付くのに対し、“娶”が通常結び付くのは“进”の方である。「貸す；借りる」の両義を有する動詞“借”については、補語“进”あるいは“出”との組み合わせによって貸し手・借り手間における方向が規定され、“借进”では「借りる」の意味を、“借出”では「貸す」の意味をそれぞれ表すことになる。これに対し、“买/卖”については、売り手（起点）から買い手（着点）への所有権の移動という認識から動詞自体によって方向性が特徴づけられ、通常それぞれの動作主体の視点を反映させた“买进（来）—卖出（去）”のような組み合わせが無標的となる。しかしながら、実際には次のような“买出”の組み合わせの例も存在する。

(29) 他从邻居那里买出两间房子。(刘月华主编 1998 : 219)

 [彼は隣人から二部屋買った]

ここでは補語の“出”は単に「所有」という概念が形成する範囲・境界からの離脱を表すにとどまらず、上記 2.5. でみた使役化を伴う統語的操作のもたらす「(買って)取り出す」という対象への強い働きかけを表すことになる。その結果、例 (29) からは、(数ある部屋の中から) ようやく (二部屋だけ) 手に入れたという「苦心のニュアンス」を読み取ることが可能である (議論の詳細は丸尾 2010b を参照)。

2. 7. 目的語の位置

目的語の種類によって置く位置に違いがみられる点も、明確な規則を導き出すのが

容易ではないものの1つである。場所目的語の場合には“来/去”の前に置くという規則が成り立つものの、それ以外の場合については、「場所目的語」のような特定の名称を用いて目的語の種類を限定（カテゴリー化）するのは困難であり、これを“非处所宾语”（ある文法書の用語）として括ってしまうのはあまりにも大雑把で漏れが大きくなる。そうした中で文法書やテキスト類において、有効な分類基準としてしばしば用いられるのが「持ち運び（あるいは移動）ができるかどうか」であり、次のように目的語の位置が論じられる。

持ち運び不可（場所目的語はこのタイプ）→目的語は“来/去”の前に置く

走进教室来 ～ *走进来教室

下起雨来了。

持ち運び可 → 目的語は“来/去”の前後に置ける

拿出一本书来 ～ 拿出来一本书

ただし、「持ち運び」という概念が直接的には適用できない、次のようなフレーズが目的語となった例もみられ、これが“来”の前あるいは後に置かれた形のいずれでも成立する。

(30) 想起他叫什么名字来了 ～ 想起来他叫什么名字了

[彼が何という名前なのか思い出した]

また、持ち運びができるもので“来/去”の後に目的語が置けるのは、一般に動作が完了している場合であるとされるものの、多くのインフォーマントは次のような（まだ実現していない）命令文において両タイプの形を許容する。

(31) 你买回一些水果来吧。～ 你买回来一些水果吧。

[少し果物を買ってきてください]

3. まとめ

方向補語“起来”が「～しはじめる」という開始の意味を表すことは、初級文法に出てくる基本事項である。ただし、これは“笑、哭”のような持続動詞と結びつく場合であって、次のような瞬間的な変化を表す場合にはそのように訳すことはできない。

(32) 一上冰场就跌起跤来（《汉语动词用法词典》102）

[スケートリンクに出るや否や転んでしまった]

(33) 一毕业就怀起孕来（《HSK 词语用法详解》232）

[卒業後すぐに妊娠した]

(34) 指南针怎么指起东来了（《汉语动词用法词典》466）

[コンパスがどうして東を指すんだらう]

(35) 没想到他又病起来了(《汉语动词用法词典》27)

[彼がまた病気になるなんて思いもしなかった]

こうしたものはより包括的な観点から「新たな事態の発生」という点で、“笑起来”にみられる開始義とのリンクを見出すことが可能である¹⁷⁾。

専門的な論文・研究レベルにおいては、方向補語の表す意味をより広くカバーするために認知言語学的手法も取り込みつつ、コアの抽出・意味ネットワークの構築といった試みが多くなされている。一方、テキスト・教学レベルでは、中核的な用法(プロトタイプ)、あるいは各種用法のうちより特徴的なものを取り上げ、そのイメージの形成という観点からの説明が行われる。辞書は編集方針の違い、紙幅やその他の制約もあり、そのうちどのレベルを重視するかによって¹⁸⁾、記述に差がみられることになる。

注

- 1) 刘月华 1988 の段階では補語“进(来/去)”には“结果意义”[結果義]はないと明記されている(78頁)ものの、刘月华主编 1998:216 では新たに“凹、陷、瘪”と結び付く“进(去)”を結果義を表すものとして認めている(ただし、「へこむ」という現象についても形状変化を引き起こす力の作用(加え方)から、方向性を読み取ることが可能である)。これに対し、杨德峰 2005 は“陷进去、瘪进去”における“凹陷”の意味は、“陷、瘪”自体の意味だとして異を唱えている(30頁)。結果義に関して、例えば“团结起来”“关上、种上”それぞれにおけるいわゆる「集中」および「合わさる; 付着させる」の意味を動詞自体に本来的に備わっているものとするか(その場合、“起来、上”はいずれも「動作・行為の実現、完成」を表すものとされる)、補語の部分が表すものとするかの判定については、各種方向補語の文法的意味を考える際にもしばしば問題となる。刘月华 1988:78 は方向補語の表す結果義について、「方向補語は動作の実現の結果を表すのみで、それ自体は特別な意味をもたない」とする見解と「それ自体がある種の特殊な結果の意味を有する」とする2つの見解が存在することを挙げたうえで、刘自身は後者の方に積極的な価値を見出す立場をとっている。これに関連して、“起来”の表す意味について、荒川 1989 は動詞“放”の基本義を「手をはなす」(12頁)ことだとし、“放起来”[しまう]における集中義を「“~起来”との結合によってはじめて獲得されるものである」(22頁)と述べて、その補語の有する意義を見出している。一方で、刘月华主编 1998:354 はそれ自体で“收存”[しまう]の意味を表す(“起来”と結び付く)動詞として“收、保存、放”などを挙げている(すなわち「しまう」の意味を“放”自体のものとみなしていることになる)。この“放”については、日

本国内で出版された辞書の中では『中国語大辞典 上』(角川書店、890 頁、1994 年)や『白水社 中国語辞典』(伊地智善継編、366 頁、2002 年)などが「しまう」の意味を挙げている(ただし前者では方言とされている)。

- 2) 空間義から時間義への意味拡張は他の言語においても広くみられる現象であり、“起来”に関しては着眼点が起点からの離脱にあることが時間的な始まり、すなわち開始義(～しはじめる)とリンクする動機づけとなっている。
- 3) “过”の用法に対する考察については丸尾 2006 を参照。
- 4) 荒川 2006 や杉村 2007 (168 - 170 頁)ではこのタイプが扱われている。
- 5) 本稿では、用例に付した「?’はその表現が不自然であることを、「??」はさらに容認度が劣ることを、「*」は不成立であることを表すものとする。
- 6) 2.3.における用例には、主に丸尾 2005 (205 - 206 頁)からのものを使用した。
- 7) “放进来”は「こちらに入れる」、「放进去」は「あちらに入れる」の意味である。
- 8) 例えば「安い物」を中国語で表現すると“便宜的东西”のように、通常“的”が必要になる。これに対し、“便宜货”[安物]だと熟語化しており“的”は不要である。ただし、“便宜的东西”も文中で使われると“的”の省略が可能となるなど、“的”の要不要を外国人が判断するのは容易ではない。

她喜欢买便宜(的)东西。[彼女は安い物を買うのが好きだ]

(この注 8 には丸尾 2010a : 189 の記述を体裁を一部変更して使用した。)
- 9) ここでいう“来”類とは“来、去”のことを、“上”類とは“上、下、进、出、回、过、起”のことをそれぞれ指す。
- 10) 荒川 2003 は“来/去”以外の単純方向補語は「後に場所目的語を伴うのがふつう」としたうえで、「会話文で単純方向補語として出てくるのは“下”くらいです」と述べている(102 頁)。
- 11) “?快回吧。”のような表現を用いるインフォーマントも実際には存在し、また小説中にも同様の例がみられる。

最后萧队长说：“好，你先回吧。”(《暴风骤雨》62)

[最後に蕭隊長は言った。「よろしい。君は先に帰りなさい」]

しかしながら、通常は(規範的には)やはり“快回去吧。”のような“去”を付加した形で用いられる。
- 12) “把”構文で用いることのできない動詞の例として、“知道、相信”などの知覚・心理動詞に加えて、“上、下、进、出、回、过、起”などの方向動詞が挙げられる。一方で、使役構文においては、“请你让我进去吧。”[私を中に入れてください]のように方向動詞を述語動詞として用いることが可能である。
- 13) この使役化により、フレーズ“买回来”には「買って帰ってくる」に加えて「買い戻す」

の意味もみられることになる(杉村1991参照)。また、通常「取り出す」意味で取り上げられることの多い“拿出来”についても、主体の移動を伴った「(手に)持って出てくる」という意味で用いられることもある。

- 14) こうした統語的制約から加えられる形式的な(dummy)動詞として“弄、搞”などが挙げられる。

a. 坏[壊れる]→弄坏[壊す]

b. 清楚[はっきりしている]→弄清楚/搞清楚[はっきりさせる]

手による動作を表す例(21)の“拿出来/掏出来”“放进去”に対して、その手段は不明であるものの、「出す」「入れる」をそれぞれ“弄出来”“弄进去”のような形で表すこともできる。

- 15) 例えば例(2)のBの回答には、“過去”に加えて“过来”も用いられる。

(2)′ A: 你过来! [おいで]

B: 我马上过来。[すぐ行きます]

- 16) 马庆株1997は“主观范畴”という概念を用いて“来”、“去”分别与主观上可见不可见、可感知不可感知有关, 可以认为“来”与目击相联系。“去”与消耗义有关, 消耗义是由不可见义和不可感知义引申出来的。”(198頁)と解釈している。

- 17) 補語“起来”に関する一連の考察は、丸尾2008aおよび2008bを参照のこと。

- 18) 補語“起来”について、『中日辞典(第2版)』(小学館、2003年)には、従来の「集中義」に類する記述にとどまらない、次のような機能面に言及した説明がみられる。

(前略) “团结起来”(団結する)、“把精神集中起来”(精神を集中する)のような例でも「分散→集中」という、ばらばらのものが一つに合わさって形をなし、新しい機能を発揮し始める意味を表す。(1146頁 下線は引用者。体裁も一部変更)

この「新しい機能」とは“起来”の本質に言及したものであろうが、これが具体的にどのようなものについて述べたものかは推測の域を出ず、さらに一般の学習者がこれを実感するのは容易ではないと思われる。

用例出典

周立波《暴风骤雨》，人民文学出版社(1994.6)

侯精一等编著2001.《中国语补语例解》(日文版)，田中信一等译，商务印书馆。

黄南松·孙德金主编2000.《HSK 词语用法详解》，北京语言文化大学出版社。

孟琮等编1999.《汉语动词用法词典》，商务印书馆。

参考文献

荒川清秀1989.「補語は動詞になにをくわえるか」、『外語研紀要』第13号，愛知大学外国語研

究室。

- 荒川清秀 2003. 『一步すすんだ中国語文法』, 大修館書店。
- 荒川清秀 2006. 「“坐进来”と“送回去” — “坐” “站” “躺” + 方向補語にみられる三つのタイプ」, 『中国語の補語』, 白帝社。
- 杉村博文 1991. 「『買って帰る』と『買い戻す』」, 『中国語学習 Q & A101』, 大修館書店, 107 - 109 頁。
- 古川裕 2009. 『新感覚! イメージでスッキリわかる中国語文法』, アルク。
- 丸尾誠 2005. 『現代中国語の空間移動表現に関する研究』, 白帝社。
- 丸尾誠 2006. 「“过”の表す移動義について」, 『現代中国語研究』第8期, 朋友書店。
- 丸尾誠 2008a. 「中国語における「開始義」について — 方向補語“起来”の用法を中心に —」, 『言語文化論集』第29巻第2号, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科。
- 丸尾誠 2008b. 「現代中国語の補語“起来”について」, 『日中言語対照研究論集』第10号, 日中対照言語学会。
- 丸尾誠 2010a. 『基礎から発展まで よくわかる中国語文法』, アスク出版。
- 丸尾誠 2010b. 「中国語の方向補語“出(来/去)”の表す意味」, 『日中言語対照研究論集』第12号, 日中対照言語学会。
- 刘月华 1988. 〈趋向补语的语法意义〉, 《语法研究和探索》(四), 北京大学出版社。
- 刘月华主編 1998. 《趋向补语通释》, 北京语言文化大学出版社。
- 马庆株 1997. 〈“V来/去”与现代汉语动词的主观范畴〉, 《第五届国际汉语教学讨论会论文集》, 北京大学出版社。
- 孟琮 1987. 〈动趋式语义举例〉, 《句型和动词》, 语文出版社。
- 杉村博文 2007. 〈基于汉外对比的教学语法〉, 《汉语教学学刊》第3辑, 北京大学出版社。
- 杨德峰 2005. 〈趋向补语“进来”和“进去”的对称与不对称〉, 《汉语研究与应用》第3辑, 中国社会科学出版社。

[付記]本稿は「中国語話者のための日本語教育研究会」(平成21年12月19日(土)於名古屋大学)における口頭発表の内容に、大幅な加筆修正を加えたものであり、平成22年度科学研究費補助金(基盤研究(C))「現代中国語における空間認識に関する体系的な研究」課題番号19520338)による研究成果の一部である。

